

みずほCustomer Desk Report 2018/04/19号(As of 2018/04/18)

国際為替部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	107.21
TKY 9:00AM	107.02	1.2373	132.43	1.4297	0.7769
SYD-NY High	107.39	1.2397	132.90	1.4315	0.7797
SYD-NY Low	107.00	1.2342	132.37	1.4173	0.7745
NY 5:00 PM	107.24	1.2374	132.69	1.4205	0.7783
NY DOW	24,748.07	▲ 38.56	日本2年債	-0.1500	0.00bp
NASDAQ	7,295.24	14.14	日本10年債	0.0300	▲1.00bp
S&P	2,708.64	2.25	米国2年債	2.4293	3.74bp
日経平均	22,158.20	310.61	米国5年債	2.7318	4.28bp
TOPIX	1,749.67	19.69	米国10年債	2.8737	4.42bp
ソコ日経先物	22,175	270.00	独10年債	0.5295	2.45bp
ロンドンFT	7,317.34	91.29	英10年債	1.4145	▲2.10bp
DAX	12,590.83	5.26	豪10年債	2.7345	▲2.60bp
ハンセン指数	30,284.25	221.50	USDJPY 1M Vol	6.60	▲0.17%
上海総合	3,091.40	24.60	USDJPY 3M Vol	7.20	▲0.09%
NY金	1,353.50	4.00	USDJPY 6M Vol	7.64	▲0.08%
WTI	68.47	1.95	USDJPY 1M 25RR	-0.75	Yen Call Over
CRB指数	202.97	3.59	EURJPY 3M Vol	7.38	▲0.09%
ドルインデックス	89.62	0.11	EURJPY 6M Vol	7.96	▲0.04%

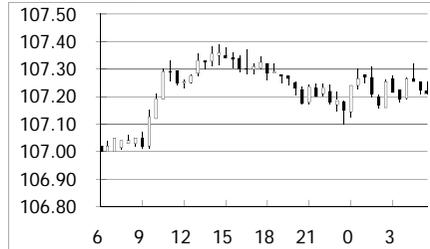
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
4月18日	17:30	英 CPI(前月比/前年比)	3月 0.1%/2.5%	0.3%/2.7%
	18:00	欧 コアCPI・確報	3月 1.0%	1.0%
	18:00	欧 CPI(前年比)・確報	3月 1.3%	1.4%
	18:00	欧 CPI(前月比)	3月 1.0%	1.0%
4月19日	03:00	米 ギャドリー・NY連銀総裁 講演「長期債利回り上昇は経済が良好に推移したため」	-	-
		米 ページュブック	-	-

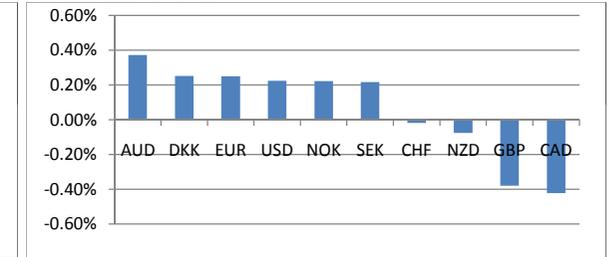
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
4月19日	10:30	豪 雇用者数変化	3月 20.0k	17.5k
	10:30	豪 失業率	3月 5.5%	5.6%
	21:00	米 プレイナードECB理事 講演	-	-
	21:30	米 新規失業保険申請件数	230k	233k
	22:30	米 クォールズFRB副議長 講演	-	-

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	106.80-108.00	1.2340-1.2420	132.40-133.50

【マーケットインプレッション】

昨日のドル円相場も米首脳会談等イベントを控え、107円台前半をコアレンジとして方向感に欠く展開となった。本日のドル円は底固い展開が見込まれる。注目された日米首脳会談では目新しい話は出てこなかったものの、朝鮮半島情勢を巡ってはポンペオCIA長官が北朝鮮を訪問し金正恩委員長との会談が行われる等、地政学的リスクが後退。シリア情勢を絡んだ報道も一旦消化された感がある中、投資家のリスクセンチメントも徐々に回復しており、ドル円相場は底堅く推移するものと思われる。

東京	東京時間のドル円は107.02レベルでオープン。17日から行われている日米首脳会談にて、北朝鮮に核・ミサイル廃棄を求める方針で足並みを揃え、米朝首脳会談にて拉致問題を取り上げる日本側の要求をトランプ氏が容認し、良好な日米関係が意識されたことでリスクセンチメントが改善。22,000円台の壁が意識されていた日経平均株価がオープン後にその壁をブレイクし、堅調推移となると、ドル円も午後にかけて高値107.39まで上昇。その後、トランプ氏がツイッターにて「TPPIは米国にとって好ましくない」との発言をするもマーケットの反応は限定的となり、107.34レベルで海外に渡った。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は107.34レベルでオープン。特段目立った動きはなく、狭いレンジで推移し、107.23レベルでNYに渡った。ユーロドルは1.2371レベルでオープン。3月のユーロ圏CPI確報値が速報から下方修正されたことに加え、2月分も下方修正されたことから1.2342まで下落し、1.2383レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.4303レベルでオープン。3月の英CPIが前年比+2.5%と、12か月ぶりの低水準の結果となったことでBOEの今後の利上げペースが遅くなるとの観測から1.4173まで下落し、1.4218レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	海外市場のドル円は、株高を受けてリスクオン地合が強まり、クロス円上昇にサポートされ高値107.39まで上昇したが、軟調な英指標を背景に下落するポンド円に連れ安となり107.23レベルでNYオープン。企業決算を受けて下落する米株を横目に107.10まで下落。しかし、WTI原油相場が2014年以來の高値まで上昇する動きに米株が反発したことや関係者筋の情報として「トランプ米政権がロシアに対して近く追加政策を科す計画はない」と報じられたことを好感し、ドル円は反発。株上昇に加え、カナダ中銀金融政策委員会の結果がハト派と受け止められCAD売りが強まり、対CADでのドル買いが強まったことも相俟って、ドル円は107.31まで上昇。NY午後後に公表された地区連銀経済報告(ページュブック)では、「見通しは引き続き明るい」とされたものの、製造業、農業、運輸業等幅広いセクターの調査先が新たな輸入関税や貿易摩擦の拡大による悪影響へ懸念を示したことが明らかになり、107.18まで反落する場面も見られたが、その後は107.32まで反発し、107.24レベルでクローズ。なお、本日ギャドリー・NY連銀総裁は、「長期債利回り上昇は経済が良好に推移したため」との見方を示しつつも、「貿易と財政政策は中長期的リスクを高めた」「関税戦争になれば、非常に悪い結果に」といった懸念も示した。一方、ユーロドルは1.2383レベルでオープン後、狭いレンジで方向感なく推移し、1.2374レベルでクローズ。また、メルケル独首相がトランプ米大統領と今月27日にワシントンで会談することが明らかになった。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

担当:伊藤・田家